

仕事人秘録

M&A（合併・買収）

関連の部署から経営企画

部へ異動する。1998

年春のことだ。

個人向けのローンなどを開発する部署で、肩書きは副部長だつた中西勝則さんが推進役。管理職の一歩手前です。異動そのものには驚きはありませんでした。情報営業部には7年もお世話になりましたし、部下も育っていましたから。

ただ、気になつたのは静岡銀行もバブル崩壊や金融危機の余波でリストラが続いた、M&A業務の大半がグループ企業の静岡キャピタルに移管されてしまったことです。

中小企業でも本格的にM&Aを活用する時代になりつつありました。私は銀行本体で戦略的に取り組むべ

富士市産業支援センター長
小出 宗昭氏



情報営業部勤務の最終日に
は同僚から花束をもらった

M&A部隊再結集へ直訴

うれしかった
おかげで。そのまま通
すから」

きだと思っていました。

「戦略的なコンサルティング会社を始める」。

「これだ」と飛び上が

りましたね。自分が思い描

いていたM&Aによって中

性があると見ていました

が、部外者になってしまつたので、指をくわえている

だけです。

99年半ば、ある通達が
出された。そこにはこんな文言が書かれていた。

「戦略的なコンサルティ

ング会社をつくるそうです
ね。それを私に任せてもう
えませんか」と。

「おい。小出君。今度は何
をするぞ」。しかしつぶしにか

かるようなことは全くな

く見守ってくれました。

2000年7月、静銀経

営コンサルティングが発足

したのです。「経営企画部

新会社設立担当」として、

経営企画部に異動して改

思ひもよらぬことを告げら

れました。

當幹部に直談判したほうがいいと思いました。

ラッキーなことに三島支店長だった中西勝則さんが

人事を所管する経営管理部の副部長として本部にいました。

満を持して計画実行

です。社員食堂で昼食を終

えて職場に戻るうと歩いて

いる中西さんの肩を後ろか

ら軽くたたきました。振り

返った中西さんに「どうて

もいい金もうけのアイデア

を持たせて下さい」と頭を下

げました。

すると中西さんは意

外な答えが帰ってきたのを

ハッキリと覚えています。

「いいよ。小出君の人事案

を持っておいで。そのまま通

すから」